



医科研の印象

免疫学研究部

木梨 達雄

4月から免疫研究部に赴任いたしております。この場を借りて簡単に自己紹介させていただきたいと思います。京都大学医学部医化学、本庶教授の研究室で大学院および2年間助手として、おもに血液細胞の分化を研究しておりました。その後3年余ハーバード大学 Center For Blood Research の Timothy A. Springer 教授の研究室でインテグリンの研究をしておりました。本庶研在室の折、当時熊本大学におられました高津望志教授の研究室と共同で IL-5 の cDNA クローニングに成功したのがきっかけで、折に触れて高津先生のご指導を承っており、アクティブに活躍している免疫研究部の様子はわかっておりましたので、誘っていただいた時には、躊躇なくお引き受けした次第です。

医科研には各分野の第一線で研究されておられる研究者がたくさんおられ、日本でも数少ない刺激的な研究機関なので励みになり、私も負けずに頑張ろうと日夜励んでおります。すでに赴任して半年余なので私が抱いた若干の印象を以下に記したいと思います。

免疫学研究部がある一号館は、以前おりました京大医化学に優るとも劣らない程古風な建物なのですが、古皮に新しい酒を盛ることく、この落差を私は嫌いではないのです。

しかし思っていた以上に老朽化が激しいようで、先日私のいる研究室の天井の漆喰（かなり重たい）が大きな音をたてて崩れ落ちたときにはさすがに驚きました。幸い真下に誰もいなかったので大事にいたりませんでした。最近、2号館、3号館のみなさんをうらやましく思っております。また女性の割合がかなり増えているのはうれしい驚きでした（真面目な意味で）。

ハーバードではほぼ半数あるいはそれ以上を女性が占めており、結婚、子育てなどに負けず研究している優秀な女性研究者がたくさんおりました。日本の研究者の層を厚くするためには研究を志す女性の奮起が不可欠だと思います。最後に私が赴任してまだ日が浅いせいなのかもしれませんが、研究室間の情報交換、交流があまり盛んではないような気がします。最新の成果を様々な面から検討すれば、研究の壁も案外簡単に突破できるやもしれません。ちなみに私はインテグリンの接着性を制御している細胞分子を主な研究対象にしており、VLA-4/5, LFA-1, tyrosine kinase, PI3 kinase, PKC, ras, FcεRI がキーワードです。敷居は限りなく低くしているつもりですので気軽に声をかけてください。

CLINICAL RESEARCH WARD

平成6年慰霊祭行われる

去る10月4日(火)午後1時から、平成6年医科学研究所慰霊祭が、当研究所1号館会議室にて執り行われました。

この式典は、毎年1回、それまでの1年間に当院で亡くなられ、医学研究の発展のため病理解剖させていただいた方々の御霊をお慰めし、感謝の意を表わすとともにその御冥福をお祈りするものです。

当日は、御遺族の方々の心情を表わすかのように小雨となりましたが、白菊いっばいに飾られた祭壇を前に17柱の御霊に対して、御遺族や教職員ら約60人の参列のもと、しめやかに式典が進められました。

黙とう、献体者御尊名の奉読と続き、廣澤所長から御霊に捧げることばとして、「病理解剖は医学における



最も重要な研究活動の一つであり、病因を追及できたこと、医療行為の結果を正確に判断することができることなど、医学研究に充分に役立たせていただきました。どうか安らかにやすみください。」と心からの敬意と感謝の意が述べられました。引き続き、参列者が順次、祭壇に進み献花を行い、最後に浅野病院長から参列者への挨拶があり、閉式となりました。